

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0392900031
法人名	株式会社 信樹会
事業所名	グループホーム 城山の杜
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌第15地割5-1 (電話) 0193-42-5750

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	3月31日

【情報提供票より】(20年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	400 円
	夕食	320 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 81.39 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道又内科小児科医院、小松歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大槌町のグループホーム「城山の杜」は、国道45線を北上、城山トンネルを過ぎ大槌川の交差点を左折、大槌小学校後方の閑静な場所に、株式会社「信樹会」の代表者が所有する1000坪の敷地に、平成19年6月、「一丁目」、「二丁目」の呼称で併設のデイサービスと共に開設されたばかりの2ユニットのホームである。運営者は町内のボランティア団体のいくつかに所属し、20年間の活動実績があり、地域のお年寄りが安心して入ることができるホームを目指し設立に奔走、みんなの協力で立ち上げることができた。利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安全・安心・衛生に留意し、家族・地域との連携を密接にすることをモットーに、チームとしての取り組みが始まったばかりで、今後の取組みが注目される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価初回のため該当しない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 調査報告書を全職員に記入してもらい、取りまとめを行なったが、開設間もないこともあり入居者の確保が第一の課題として挙げられ、昨年12月にやっと満室になったばかりの状況の中で、自己評価項目の内容の理解が不十分で、職員側もどのように記入したらよいか分からない状況だった。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2回開催されたが、開設後の日数が浅く、体制が整っていない中で会議だったため、ホームの運営、利用状況、行事等の説明が中心となっており、意見をサービスの向上に活かすまでには至っていない。ただ、参加者から入院した場合すぐ退所しなければならないのかの質問があり、当ホームでは概ね一ヶ月以上の入院加療が必要な場合に契約が終了になるが、次の受け入れ先が見つかっていることが条件との前向きな回答がなされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望等は来所時に職員が聞いて、朝の申し送りやミーティングで話し合いが持たれており、玄関には苦情箱も設置されている。四月には家族会が結成され、苦情、不安への対応と運営への反映が図られる予定である。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 建設説明会、落成式には近所の人も参加・招待されており、開設時の見学会では町内会の人々が参加し、カラオケ等を楽しんだりしている。ボランティア団体の協力でバーベキュー会の開催、防災訓練には近所の人も数人参加し、消火機器の取り扱いの実技指導を受けたり、夕涼み、敬老会、民謡保存会等の行事の際には隣組に案内状を出すなど、地域との連携を深めている。四月には町内会に正式に加入する予定であり、今後の取組みが注目される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族・地域との連携を密にし、利用者の個人個人の意思及び人格を尊重すると共に、利用者の安全・安心・衛生を図ることを理念として株式会社「信樹会」の代表取締役社長が作り伝えているものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室に張られているが、開所当初はシルバー人材センターとホーム職員一人が専門に夜勤をやっていたが、今年の二月から職員の交代による夜勤体制に代わったため、日誌に理念を貼り、交代する際にそれを見てから業務に入るようにして、理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	信樹会の運営者は、町内の各種ボランティア団体活動を20年間続けた経歴と実績をもとに、地域との連携・地元の人々との交流の場を築くことが容易であり、事業所の入居者数・職員体制も整い、4月1日より家族会の結成、町内会への正式加入を決めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	調査報告書を全職員に記入してもらい、取りまとめを行なった。しかし、開設がH19年6月ということもあり、入居者の確保が1番の課題として挙げられ、昨年の12月にやっと満室になったばかりで、自己評価の項目の内容の理解が不十分で、職員側もどのように記入したらよいか分からず戸惑いが見られた。	○	利用者も職員も揃い、やっとスタート地点に立ったものと考えて、今後は認知症やグループホームについての学習や現場の経験、外部研修等の積み上げにより、評価を活かし具体的改善とレベルアップが図れるよう取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度2回開催されているが、開設後の日数が浅く、利用者、職員の体制が整っていない段階での会議のため、ホームの運営、利用状況、行事の説明等が中心となっており、意見をサービス向上に活かすまでには至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	釜石地区を含めた合同ケアマネ会議への参加、役場からは毎月担当職員のホーム訪問が行なわれており、SOSネットワークの取り組み、ホームの運営・利用者相談などを通じ、今後、一層の連携強化が期待できる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状況については、月1回のホーム広報及び個人のたよりで報告しており、利用明細書による請求は行なっているが、金銭は預かっていない。歯科の費用などは立替払いで処理、また、職員の突然の退職(職場不適応)があり、対応できない面もあった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望等は、来所時に職員が聞いて、朝の申し送りやミーティングなどで話し合いが持たれている。精神的に不安定で外にすぐ出たがる人、帰宅願望の強い人に対しては一日に1回のドライブ、時折近くの実家に連れて行くなどのケアを行い、最近玄関に投書箱も設けられ対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場に適応せず退職した職員が数名いたが、影響を軽減させるため、併設のデイサービスから経験者を移動させるなどの配慮はなされているが、利用者への説明はなされていない。異動や離職した場合の対応について、更なる取り組みを期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てるために、外部の研修に積極的に参加させたいとの考えを持っており、延べ22名の職員が研修会に参加している。	○	ケアマネを除く職員はグループホームの勤務経験がなく、認知症の実践研修も未受講となっており、認知症の理解を深めるため研修計画を立て意識的に職員を育てていくことが望まれている。また、外部研修の成果を職員全体のものとするため、復命の学習会を丁寧に行なっていくことも有効かと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームは「城山の杜」ひとつであり、他の市町村との交換研修によって、他の施設の静かで落ちついた雰囲気、手洗いの徹底ぶり(入浴時にも参考にしている)、うがいの仕方、見守りなどの様子を肌で感じ取り、学び取った活動・情報を、サービスの向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人は入りたくないが家族は利用したいというケースがあり、本人を誘ってみたが当初はなかなか承知しなかった。試しに利用してみて、どうしても馴染めなければ仕方ないと言うことで、一度連れてきたところ入ってもよいと承諾したため、すぐ利用することになった。家族が何回か泊まったり、夕方には本人が必ず家に電話するなど帰宅願望が強く、何回か家で泊まったりしたが現在では落ちついてきており、時間はかかったが、入居者の気持ちを尊重し、家族の意向にも応える取り組みを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内の日常的な仕事について、できる、できないは別に、まず利用者の話をよく聞いて、できない方には隣の人から手伝ってもらうとか、洗濯物の干し方、料理の仕方など教えられたり、漁師の利用者の家族から「まつかわ」などの活魚の提供を受け、さばき方を教わったり、家族ぐるみで支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の施設からの申し送りやアセスメント記録、12項目の例(本人は入りたくないが家族は入所を希望)、ホームでの生活などから本人及び家族の意向を汲み取り、適切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者が原案をつくり、それを綴ったものを職員で相談し成案を立てているが、体制が整うまでの12名分は一人のケアマネが作成している。緊急度の高い方、いきなりの入所で聞き取りが不十分の方、情緒不安定、帰宅願望の強い人などに対しては、日常の観察を加え本人、家族の意向を尊重するケアを心がけているが、全体のバランスを配慮しチーム一丸となった計画の作成が望まれる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護経過記録を参考に長期、短期の目標を立て、3ヶ月に1回の評価を行なっている。また、見直し以前に変化が生じた場合、内科の検査結果の採り入れ、自宅とホームの行き来の支援など、本人の現状に沿った介護計画の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院への送迎、買い物など利用者、家族の要望に対応した支援が行なわれているが、多機能性とは何かについて、地域資源の活用を含め、利用者、家族の多様なニーズにどのように応えていくか、また、そのような体制をどう作り上げていくか話し合いを行なった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで契約している医院をかかりつけ医としている利用者は6~7人、それ以外は、それぞれの担当医(県立大槌病院、釜石厚生病院)による受診支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設したばかりで重度化や終末期に向けた方針はまだ決まっていないが、家族の中には運営推進会議で病気になったときどうするのかと不安を訴える人もいる。馴染みの関係の中で安心して暮らしたいと言う利用者の想いを、どこまで支えることができるのか、協力機関の医師の往診もなされている状況もあり、今後どこまで連携が可能かなるべく早い段階での対応と方針の共有が求められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ、入浴時についてはドアをノックし声がけを行い、承諾を得てから対応しており、バイタルチェック表は、利用者をみながら事務室で記入し、個人ごとの記録もきちんと整理、保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	2ユニットの食堂兼憩いの場は移動式の壁で仕切られ、事務室からは双方がよく見える設計となっている。運営者の説明ではイベントやホームの行事等の際には開放されるとのことで、壁を取り除いた状況を見せてもらったが、落ち着いた状況から一転し、にぎやかなデイサービスの雰囲気となった。一人ひとりの好みを尊重するケアを目指すホームとしては、開放の多用には慎重を期して対応していただくようお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営者は利用者に、地元のおいしい魚菜類を食べて欲しいと、食事内容にこだわりを持って支援しており、食事についてのアンケートを実施し献立を工夫している。しかし、職員と一緒に食事をしていないため、調味料の使い方とか、食べ方、満足感など目が届かないところがあることも否めない。	○	利用者と職員と一緒に食事をしながら、旬のものや味付け等に花を咲かせることは、食事を楽しむことのできる支援として非常に大切なことと思われる。運営者の想いを豊かに膨らませるためにも、次年度を待たずに早い段階での取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は併設のデイサービス(まだ少人数比較的介護度の高い人)の利用者が午前中、ホーム側は午後から、順番は特に定めず入りたい人は毎日、その他の人には週3回程度入浴を楽しむための支援を行なっている。夜間は実施していない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの敷地は1000坪と余裕があり、ビニールハウスでイチゴ、大根、ほうれん草、小松菜などの季節の野菜づくりを楽しむことが出来、娘さんと一緒に種を買う人もいる。また、食事の準備、後始末、男性でも掃除機を使っての清掃、モップがけ、外掃除などに参加する人もあり、それぞれの好みや力量を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ好きの人、自宅に荷物を取りに行く人、周辺の散歩や買い物、ごみ捨て、三陸町方面への食事、バスハイキングなど、一人ひとりのニーズに応じ適切な支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出たがるため、危険防止を目的として昨年の8月から12月まで鍵をかけていた。	○	利用者をよく観察するうちに、どうすれば落ち着いた生活ができ、外に飛び出さなくても済むのかが分かるようになってきている。現在は寒いこともあり、外出傾向はおさまっているため施錠はしていないが、鍵をかけることでのマイナス面、来訪者、他の利用者への影響を考慮し、今後暖かくなっても鍵をかけないケアの実践に向けて、取り組みを継続していくよう期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域防災会議に出席、町内会には4月から正式に入会する準備をしており、消防訓練は2回実施し、地域の人、隣組も参加し消火機器の取り扱い、心肺蘇生法などを学んでいる。ただ、女子職員は夜勤の不安(災害時、誘導に従ってくれるかどうか、急変時にバイタルチェック・心肺蘇生・救急車への対応がうまくできるかどうか)を抱えており、運営者は職場の忙しさ、職員のストレスへの対応を含め、災害時の「安心と安全対策」にも配慮した取り組みが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェックし記録しているが、定期的に栄養バランスをチェックし献立を検討していくことが必要かと思われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼憩いの場のホールが建物の中心で、ほぼ左右対称にそれぞれのホームが作られており、各ホールには6人用のテーブルと椅子、ソファが1つ、小テーブルにコーヒーとお茶のセット、テレビ、大きな電気スタンド、食器用ワゴン車、入り口近くにはハイテク熱帯魚水槽、一間ほどの神棚、仕切りの壁には雛祭りの布絵と、節分の写真等が飾られており、前面の窓から前庭が望まれ、トイレは車椅子利用者にも配慮、事務室からはユニット双方がよく見え、壁を取り去るとゆとりのある明るいイベント向きのホールが出現する設計となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット一丁目の各居室の入り口には利用者の名前が、二丁目は花の名前がそれぞれ張り出され、区別された空間が作り出されている。居室の形態は個性的で、ベットに簡単なもの入れだけの部屋、テレビや冷蔵庫まで入れている部屋、隣り合わせの夫婦部屋、その他趣味の読書や絵画を活かした部屋、身体状況に合わせ電動ベット持込の部屋、ポータブルトイレ・採尿器使用者など多種多様のニーズに応える配慮、支援が行なわれている。		